

第3章 事業活動の基本的な考え方

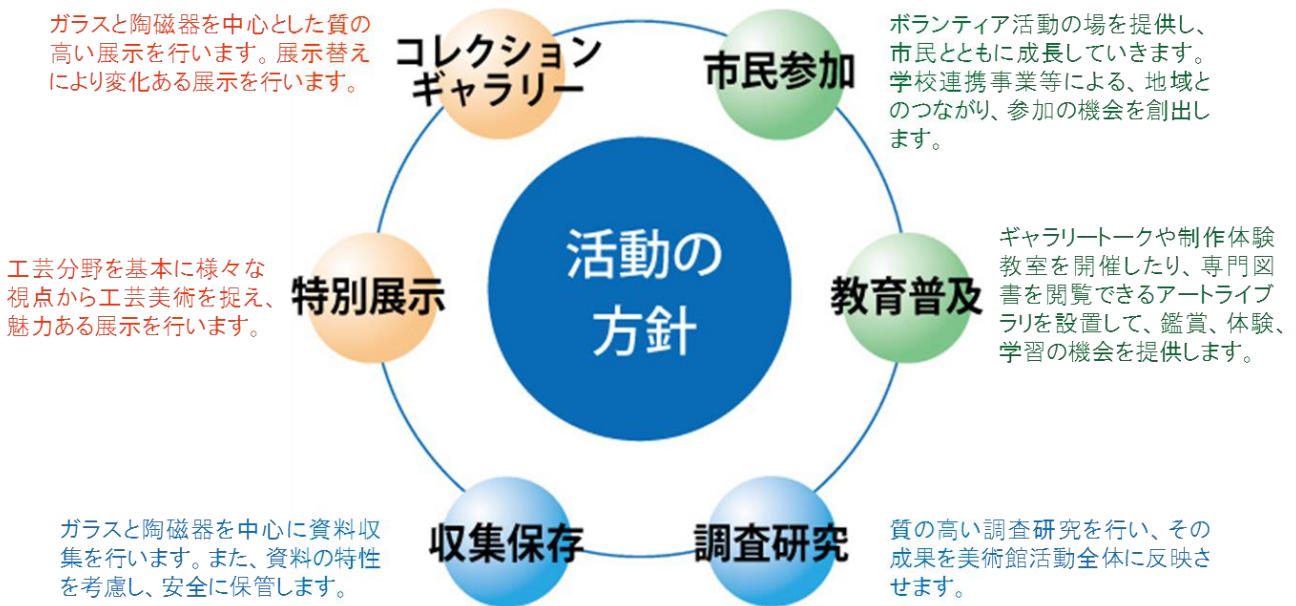
第3章 事業活動の基本的な考え方

文化芸術振興とまちづくりの拠点として、質の高い美術館活動に加え、地域やさまざまな団体等との連携、および積極的な広報・PR 活動を推進します。

国際工芸美術館の活動は、美術館としての基本的な活動の充実を図るとともに、地域や文化施設等との連携、集客向上のための広報活動にも力を入れることにより、「文化芸術で人とまちがにぎわう・まちだ」の実現に貢献します。

1 国際工芸美術館の基本的な活動

■事業活動の概要



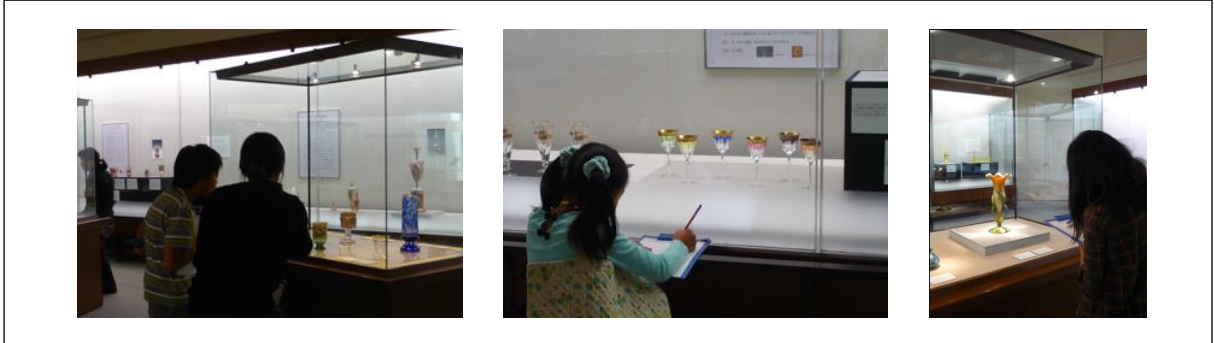
(1) 展示

工芸美術との新鮮な出会いの場を市民に提供します。

企画展示機能を持つ特別展示室に加えて、市立博物館にはなかったコレクションギャラリー（常設展示）を設け、市民がいつ来ても工芸美術との新鮮な出会いを楽しめる環境を整えます。

また、多目的に使える「フレキシブルスペース」を設け、さまざまな規模の展示開催に対応できるようにするとともに、展示室の運営期間を工夫していきます。つねに新鮮で変化に富んだ展示を行えるようにします。

■展示イメージ



(ア) コレクションギャラリー(常設展示)

コレクションギャラリーは、ガラス、陶磁器それぞれの常設展示室と多目的に使える展示室「フレキシブルスペース」の3つで構成します。

各展示室は、ガラスや陶磁器をそれぞれ30点～40点展示することを想定します。また年数回の展示替えを想定します。

■コレクション



(イ) 特別展示

国際工芸美術館は所蔵作品だけでなく、他館からの借用作品等をあわせた特別展示を行います。

特別展のテーマ設定の範囲は、所蔵作品のガラスや陶磁器を中心に、工芸美術全般にわたります。国際工芸美術館の基本理念『「くらしの中の知恵と美」の探究』にもとづき、染織・漆器・金工をはじめとして、さまざまな素材、さまざまな国、さまざまな時代の器や道具を取り上げ、斬新な視点の構成で、工芸美術の美しさ、楽しさ生活とのつながりを体感できるように展示します。

なお、特別展示と所蔵作品にもとづく企画展をあわせて行うことも想定しています。

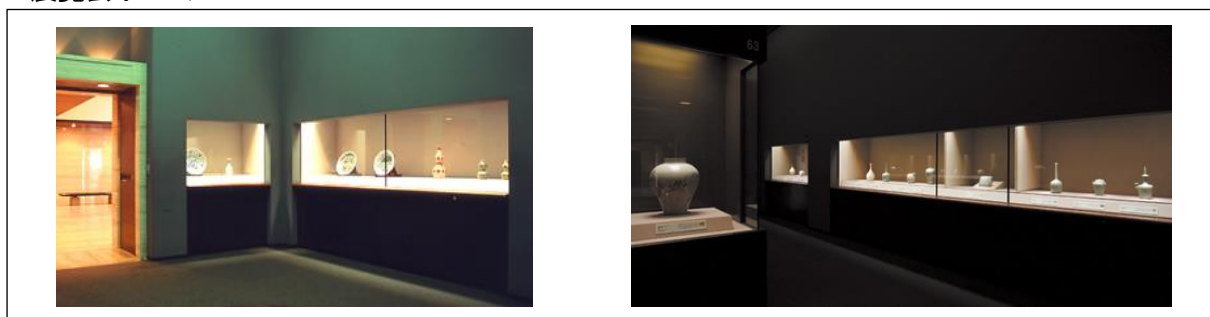
(ウ) 展示更新の考え方

展示室ごとに展示替えの時期をずらして展示作品が変わる回数を増やすことにより、いつ行っても新しい作品が見られるようにします。

■ 構成例

	3・4・5月	6・7・8月	9・10・11月	12・1・2月	
コレクション	ガラス 1	ガラス 2	ガラス 3	ガラス 4	
ギャラリー	陶磁器 4	陶磁器 1	陶磁器 2	陶磁器 3	陶磁器 4
フレキシブルスペース	特別展 1	コレクションギャラリー と連携	特別展 3	コレクションギャラリー と連携	
特別展示室		特別展 2		特別展 4	

■ 展覧会イメージ



(2) 収集保存

ガラスと陶磁器を中心としたコレクションをさらに充実・強化します。

国際工芸美術館のコレクションの特長であるボヘミアンガラス、東南アジア陶磁器といった所蔵作品に関わりの深い作品を中心に、工芸美術作品を購入、寄贈、寄託により収集します。

(ア)作品収集の方向性

ガラス	1. ボヘミアを中心とした西洋のガラス 2. 江戸から現代を中心とした日本のガラス 3. 乾隆ガラスを中心とした中国のガラス
陶磁器	1. 東南アジア陶磁器 2. 東南アジア陶磁器に影響を与えた中国陶磁器 3. 上記 2 分野に関連する西洋と日本の陶磁器
その他	1. 所蔵作品を補完し、コレクションを充実させる工芸美術作品及び資料類

(3)調査研究

工芸美術専門美術館の活動を支える調査研究を行うとともに、その成果を広く発信します。

工芸美術専門館として、「くらしの中の知恵と美」をテーマとした工芸美術分野の中で所蔵作品を軸に調査研究を行います。また、美術館機能を高めるための保存、展示、教育普及に関する調査研究を行い、活動の基盤を強化、発展させます。更に他館や大学等と連携した調査研究にも積極的に取り組みます。このような調査研究の成果について広く発信します。

(ア)工芸美術分野の調査研究

美術史、技術史、文化史等、多角的な視点から所蔵作品を軸に調査研究を行い、工芸美術の意義を検証し、評価を高めます。

(イ)美術館機能に関する調査研究

工芸美術専門美術館としての機能を充実させるために、保存や展示、教育普及の手法に関する調査研究を行い、その成果を活動に反映させます。

(ウ)他機関との連携

単独の調査研究にとどまらず、他館や大学、各種研究所等、国内外の他機関との連携にも積極的に取り組みます。

(エ)調査研究成果の発信

調査研究の成果は、紀要等の刊行物を発行して報告するだけでなく、さまざまな情報媒体を通じて、広く発信します。

(4)教育普及

鑑賞、体験、学習を柱とした活動を展開します。

市民が工芸美術に親しみ、興味を広げ、自ら主体的に学んでいくことを支援することを目的に、鑑賞、体験、学習の3つを柱とした活動を行います。

特に、現在の市立博物館では実施できなかったガラス・陶磁器の制作体験ができる体験工房の整備に取り組みます。

■教育普及活動の構成

1. 鑑賞 — ギャラリートーク、公開制作
2. 体験 — 体験工房
3. 学習 — 講演会・講座、アートライブラリー

(ア) ギャラリートーク

学芸員による作品解説を行い、より多くの人々が工芸美術の魅力を理解し、親しめるようにします。



ギャラリートーク(イメージ)

(イ) 公開制作

作品制作の現場を公開します。作品ができる過程や作品誕生の感動を体感できる貴重な機会を提供します。

(ウ) 体験工房

幅広い世代・習熟度の人々に工芸美術の魅力や楽しさを伝え、所蔵作品や展覧会への理解を深めることを目的とします。そのため、体験講座の内容はガラス・陶芸を主とし、基礎的な内容を中心に検討します。

さらに難度の高い本格的な製作体験を希望する参加者のためには、市内にある民間および公共の工房等の情報を集め、提供します。

【対象】 初心者から中級者

【内容】 一定の技術の習得を図る連続講座と初心者でも気軽に参加できる体験講座で構成

例)ガラス: ステンドグラス、グラヴィール等

陶芸: 手びねり、紐づくり等

* 防災上の観点から、火気を使用しない講座を検討します。



体験工房(イメージ)

(エ) 講演会・講座

学芸員や作家、コレクターなど、様々な講師による講演会や講座などを開催し、工芸美術の魅力をより深く学ぶ機会を提供します。

(オ) アートライブラリー

工芸美術に関する専門書の閲覧や貴重書のデジタルデータ(PDF形式)閲覧ができるアートライブラリーを設置します。また、所蔵作品や他館に関する情報提供を行います。



アートライブラリー

(参考イメージ: 世田谷美術館アートライブラリー)

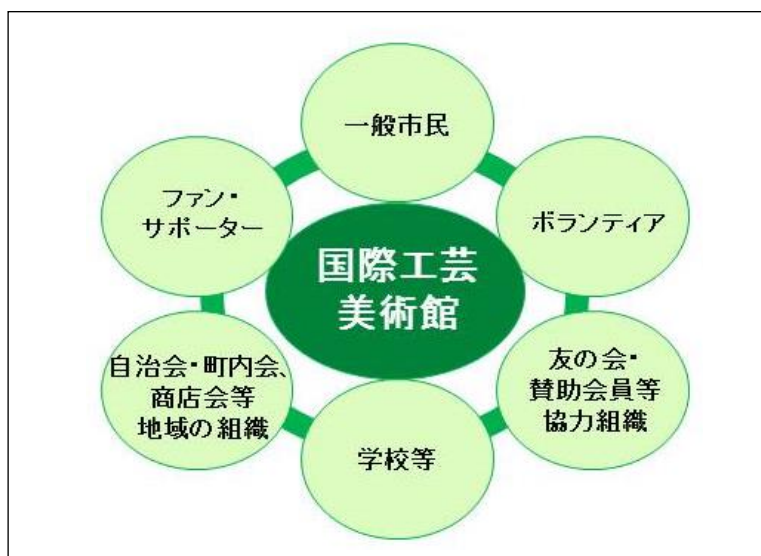
写真提供: 世田谷美術館)

(5) 市民参加

美術館活動に市民が参加する機会を創出します。

特色をもった専門美術館として工芸美術への理解を深め、市民の主体的な学習活動や文化芸術活動を支援しながら市民とともに成長していきます。そのため、常に市民と接触の場をもち、市民の声が美術館の活動に反映される開放的な運営をします。また、市民と美術館が一体となった活動を具体化したり、推進したりするため、ボランティア活動の場を提供したり、学校との連携や商店街、地域のイベント、お祭り等で共催事業を行うなどしながら地域とつながり、市民参加の機会を創出します。

■市民参加の対象層の考え方



■市民参加の機会創出の考え方

対象	市民参加の機会創出の考え方	施策例
①館の活動に直接的に参加・協力する方々 ＜ボランティア＞	地域の人々等が気軽に館の活動に参加できるよう、説明会や講習会を実施し、人材を育成します。	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内会・自治会への依頼 ● 館内案内人等の育成
②工芸美術に高い興味・関心を持ち、館が行う活動を支援する方々 ＜友の会・賛助会員等、協力組織＞	館運営の一端を担う組織づくりを行い、幅広い参加を促していきます。	<ul style="list-style-type: none"> ● 支援団体の後援 ● 支援団体に対する特典等の検討
③繰り返し館に来訪・参加し、館の評判や情報を発信してくれる方々 ＜ファン＞	展示鑑賞、体験工房等の利用を通じて、館および工芸美術の興味関心を育むことにより、館への愛着を高めます。	<ul style="list-style-type: none"> ● 展覧会やイベント情報提供などによるリピーターの育成
④週末等に気軽なレクリエーション、地域学習を目的として来館する方々 ＜一般市民＞	一般の方々が興味を持つ企画の実施や、気軽に参加できるプログラムの充実を図ることにより、館の利用者増加を図ります。さらに、一般の方々がファンや友の会会員、ボランティア会員となって、館との関わりを深めていけるようなしくみを提供していきます。	<ul style="list-style-type: none"> ● 話題性のあるイベントの実施 ● 地域密着型イベントの実施
⑤学校等	鑑賞教室やアウトリーチを通じて、工芸美術への興味を呼び起こします。また、学生の制作活動を支援し、社会活動の場を提供することにより、市民参加への流れをつくります。	<ul style="list-style-type: none"> ● 出張授業の開催 ● 学芸員実習生受け入れ ● 美術系学生の作品展示
⑥自治会・町内会、商店会等地域の組織	地域や商店会のイベントやお祭りとの連携企画の実施等、様々な機会を通じて地域の団体と接点を作ることにより、市民参加への流れを作ります。	<ul style="list-style-type: none"> ● 商店街や地域のお祭り等との連携企画

2 文化芸術の魅力あふれるまちに向けた活動

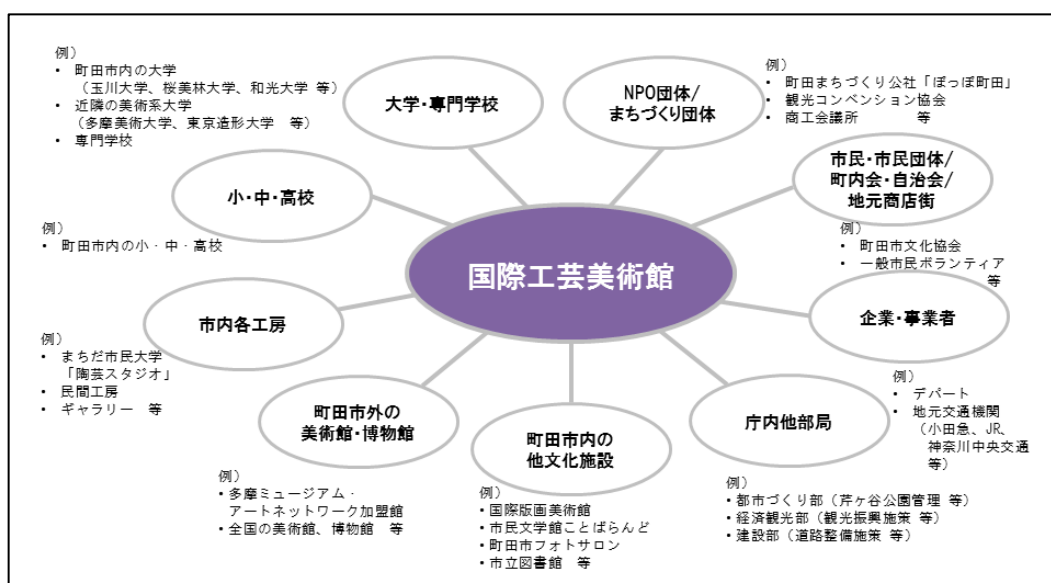
(1)連携

地域やさまざまな団体等と連携した活動を行い、
文化芸術の魅力あふれるまちを実現します。

地域や教育機関、文化施設等と積極的に交流を深めることにより、工芸美術の魅力を多方面から伝え、豊かな感性を育む機会を創造・提供します。また、さまざまな事業を連携して行うことで、文化芸術への興味を高めるとともに、文化芸術の魅力にあふれるまちの実現を図ります。

周辺に美術系大学が多いという町田市の地域特性や国内随一の工芸美術コレクションを持つ美術館としての特徴を活かした連携の方法、内容を検討します。

■連携の対象



(ア)教育連携の考え方

子どもたちと芸術が会う機会を提供し、創造力や鑑賞する力の育成に貢献します。また、学生の制作活動を支援し、次世代の文化芸術を担う人材の育成に貢献します。

実施にあたっては、学校教員や大学研究者との協働によるプログラム開発を行う等、双方向に連携した活動を推進します。

また、子どもたちのワークショップのファシリテーションを学生が行う等、子どもたち、学生、教職員・研究者、作家等が多様に交流し、将来にわたって継続的に参加していける活動を展開します。

[連携先]小・中・高校/大学・専門学校

①小・中・高校向け展開例

- ・ 社会科見学の校外活動での利用
- ・ 教員向け講座
- ・ 美術系部活動の児童・生徒

②大学・専門学校向け展開例

- ・ インターンシップ等での実務体験
- ・ 学生作品展、および共催イベントの開催
- ・ 体験工房でのアシスタント

(イ)文化施設連携の考え方

市内の文化施設との相互協力による活動を行い、市内回遊を促進する等、文化芸術の魅力あふれるまちづくりに貢献します。また、市外の美術館、民間のギャラリー・工房、関係機関等との交流を深め、巡回展や共同企画の実施等も視野に入れた事業展開を目指します。

[連携先]町田市内の他文化施設/町田市外の美術館・博物館/市内工房

①市内文化施設連携の展開例

連携のレベル	連携のタイプ	概要	連携施設例
相互協力	人的協力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他館の活動に自館の学芸員等を派遣します。 例)セミナーやワークショップの講師 等 ・ ボランティア人材の育成、活用等を相互で行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習センター ・ 市立図書館 ・ 国際版画美術館 等
	施設協力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他館の活動に自館の施設や展示を活用していただきます。 例)生涯学習プログラムの一貫としての美術館見学、館内設備の共同利用 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習センター ・ 国際版画美術館 等
	情報発信協力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他館で開催中の展示や活動について、自館内(ロビー等)で情報発信します。 例)他館を紹介するサテライト展示スペースの設置 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際版画美術館 ・ 市民文学館 ・ 町田市フォトサロン 等
一体的協働	テーマ連動企画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他館と共通のテーマによるイベントや特別展を開催します。 例)他館とテーマを連動させた特別展、アートイベントの開催 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際版画美術館 ・ 市民文学館 ・ 町田市フォトサロン 等
	市内回遊企画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内文化施設の回遊を促す共同イベントや広報活動を実施します。 例)スタンプラリー、共通チケットの発行、回遊マップの制作 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際版画美術館 ・ 市民文学館 ・ 町田市フォトサロン 等
	一体的広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内文化施設との協働・相互連携により、町田市としての一体的な広報活動を実施します。 例)広報誌の発行、WEB サイト・メールマガジン・SNS連携、民間企業との共同誘客キャンペーン等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際版画美術館 ・ 市民文学館 ・ 町田市フォトサロン ・ 生涯学習センター ・ 市立図書館 等



市立図書館



生涯学習センター



市民文学館



フォトサロン



自由民権資料館

②国際版画美術館との連携

国際版画美術館は、版画を中心に活動を行っている大変ユニークな美術館です。国際工芸美術館もまた同様に専門的な美術館として活動を予定しています。版画、工芸の各分野において高い専門性を持つ独自の美術館が隣接することから、企画展示やイベント、広報活動など様々な機会をとらえながら特性を活用することで相乗効果を高め、美術ゾーンを形成します。



国際版画美術館

【施策例】

- ・ 広報・宣伝活動の連携
 展覧会やイベント、美術館案内などチラシやパンフレットの共同制作、電車内の中吊りポスターなどの交通広告の共同実施
- ・ 展示における連携
 関連した事柄や共通のテーマなどによる展覧会の企画・開催
- ・ 共同イベントの開催
 ゆうゆう版画美術館まつりや、版画、工芸に関わったイベントなど共同での実施
- ・ 施設機能を補う連携
 施設の相互利用による相互の機能充実
- ・ 各館の所蔵作品、資料データの共有化と一元管理
 検索機能を高め、利用者の利便性向上をはかった作品、資料データの一元管理
- ・ ボランティアスタッフ等の人材交流
 市民参加における交流の場の提供

③市外文化施設連携の展開例

- ・ 市外美術館との所蔵作品、資料の相互貸出

- ・ 市外文化施設、関連機関等との共催による巡回展の開催
- ・ 市外美術館との交流展の開催
- ・ 講演会の共同開催

④民間のギャラリー・工房との交流

国際工芸美術館の展示や活動について情報を提供するなど様々な形で交流を行います。

(ウ)まちづくり連携の考え方

国際工芸美術館が文化芸術の魅力あふれた町田市の実現に貢献するには、町田市のまちづくり施策とソフト事業およびハード事業の両面で連携していくことが必要となります。庁内まちづくり部門に加え、地域で活躍する様々な団体、事業所などとの連携をすすめます。まち全体で文化芸術を感じていただけるような取り組みにつなげていきます。

【連携先】

市民・市民団体 / 町内会・自治会 / 地元商店街 / 企業・事業者 / まちづくり団体 / NPO 団体 / 町田市内の他文化施設 / 町田市外の美術館・博物館 / 庁内他部局

①ソフト事業の展開例

- ・ 回遊促進事業
 - 回遊コース設定、案内マップ制作 等
- ・ 文化芸術ゾーン発信事業
 - タウンビジュアルアイデンティティ(VI)(※1)開発、商店やギャラリーと連携した街頭ギャラリーの展開、文化芸術タウン誌制作・発行、近隣地域を含めた芸術・文化情報の提供 等
 - (※1)統一されたイメージを積み重ね、文化芸術ゾーンのブランドづくりを実施。
 - 町田市や文化芸術ゾーンを象徴するようなネーミング、キャッチコピー、ロゴマーク 等
- ・ 商店街や地域のお祭り等との連携企画
 - 町田さくらまつり、フェスタまちだ、町田時代祭り 等
- ・ 芸術イベントの企画・運営事業
 - アートフェスティバル等の事業を検討

②ハード事業の展開例

- ・ 回遊ルート整備事業
 - 統一デザインによる案内サイン、案内板の設置 等
- ・ 回遊拠点整備事業

文化施設への誘導機能の充実・整備（※2）

（※2）各施設交通アクセス案内、推奨コース案内、文化施設等解説サイン 等

■タウンビジュアルアイデンティティの他市事例



■ハード事業の他市事例



(2) 広報・PR 活動

**来館促進活動によるにぎわいの創造を通じて、
文化芸術の魅力あふれるまちのイメージを発信します。**

市民だけでなく首都圏広域の人々、さらには外国人の方なども視野に入れて、多くの人々の来館を促進していきます。

より多くの人々の来館と首都圏広域におけるファンの拡大が文化芸術の魅力あふれるまちのイメージ形成とその普及・発信を促進し、それがさらなる新たな来館者の獲得につながっていくような活動を行います。

(ア)活動方針

①首都圏広域に情報発信（コレクション価値の発信）

コレクションの価値を活かした情報発信を行い、首都圏広域（東京都・神奈川県）に対する国際工芸美術館および町田市への認知拡大を図ります。

②来館促進（ターゲット別施策の展開）

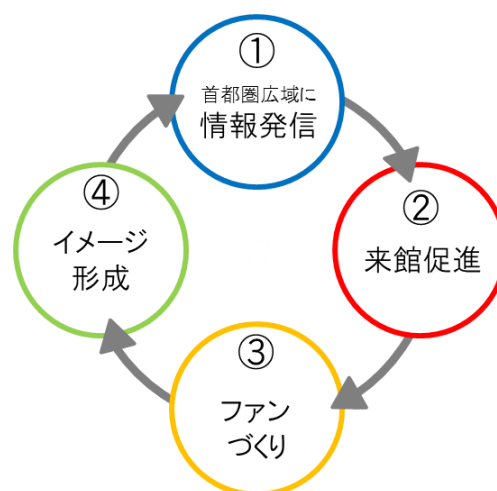
ターゲットと来館動機・目的に合わせたきめ細かい来館促進活動を推進します。

③ファンづくり（リピーター確保・市民参加）

工芸美術および国際工芸美術館に愛着を持っていただけるような活動を行い、リピーター確保と市民参加の促進につなげます。

④イメージ形成（シティプロモーション）

首都圏広域への情報発信による「美術ゾーン」の周知徹底、更に国際工芸美術館のファンによる情報発信力との連携を深め、文化芸術の魅力あふれるまちのイメージを形成します。



(イ)活動展開の手法

下表の活動を組み合わせて、効果的な来館促進活動を行います。

実施にあたっては、運営負荷や費用対効果を考慮したうえで実行可能なものを選択して実施します。

対象	目的	来館促進活動	概要
全対象	告知・利用案内	ホームページ	<ul style="list-style-type: none"> 独自サーバーによるホームページの開設 ⇒更新が容易になり、活発な情報発信が可能
町田市民/ 首都圏広 域の一般 の人々	情報発信(告知)	パブリシティ	<ul style="list-style-type: none"> 特別展や地域連携活動等を素材とした、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等への記事掲載の働きかけ
	来館促進	広告宣伝	<ul style="list-style-type: none"> 交通広告、タウン誌、フリーペーパー、市広報誌等への広告掲載やポスター掲出 市庁舎でのサテライト展示やデパート催事との連携 他
	「美術ゾーン」発信	誘客プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> 観光協会とのタイアップ企画 交通機関等および他館施設との連携による、美術をテーマとした町田市誘客プロモーションの企画・実施 共通入館券・割引券への参加(ぐるっとパス 等) 他館等へのポスター、リーフレットの配布 民間ツアーの誘致
美術ファン	ファンづくり、来館促進 ⇒再来館に繋げる取り組み	定期刊行物 SNS (ソーシャルネットワークサービス)	<ul style="list-style-type: none"> ニュースレター、メールマガジン等の発行・送付 Facebook、Twitter、学芸員ブログ等による情報発信
研究者、 専門家	美術情報の発信・共有	デジタルアーカイブ整備	<ul style="list-style-type: none"> コレクションに関するデジタルアーカイブの整備と、インターネットを介した情報の発信と共有
		国際交流	<ul style="list-style-type: none"> 海外からのインターンシップの受け入れや、作品の貸出及び借用
小・中・高 校教員	学校等教育関係者の 利用促進	見学会	<ul style="list-style-type: none"> 教員や美術系部活動の児童・生徒向け見学会等の開催
		学校向け案内ツールの配布	<ul style="list-style-type: none"> 館の利用方法、解説等を紹介するガイドブックの配布

